

# ひかりのこ

1月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2019年1月21日

## 月主題：夢中になる

### 『成長していく子どもたち』

保護者の皆様、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく  
お願いいたします。

さて、2学期の終業式後、インフルエンザにかかった子どもたちと親御さん  
がいらっちゃったと聞きました。年末年始、大変だったことでしょう。も  
う、すっかり大丈夫でしょうか。

いよいよ今日から最後の学期3学期です。3学期、子どもたちが病気になる  
ことなく、元気に過ごせますよう、願っています。

わが家の年末年始も大わらわでした。長男夫婦が、新しいマンションに引  
越すこととなり、年末は6か月の孫をずっと我が家で預かることになりました。  
ほんの少し前からやっと母乳以外にもミルクや離乳食を口にしてくれる  
ようになったので、何とかおばあちゃんでも大丈夫、となったのです。

そうはいつても、私も、ずっとさぼっていた大掃除をしなくてはなりません。  
仕方ないので、孫を赤ちゃん用のいすに座らせて、牛乳パックや配送用  
の段ボールや、中に入っているクッション材を整理しました。途中、はい、  
と牛乳パックを渡すと、両手で持って、なめてみたり転がしてみたり、結構  
遊んでくれます。また途中、はい、とビニール製のクッション材を渡すと、  
ガサガサする音が楽しいのか、それでしばらく遊んでくれました。ギザギザ  
の素材の小さな紙の箱を渡すと、爪で、ギザギザをさわってその音を楽しん  
でいます。あまり長くは機嫌よくしてくれませんが、こうやって家にある捨  
てるようなものでも、赤ちゃんにとってはとても楽しい遊び道具になります。

夕飯の準備の時には、またまた孫を椅子に座らせて、そばにお玉とボール  
を置くとそれでもガチャガチャ音を出して遊んでくれます。こうやっていつ  
も一緒にいると、赤ちゃんも寂しくないし、大人のやっていることをやがて  
理解してくれるようになります。私はそれを「お手伝い」と呼んで、「譲ち  
ゃん、お手伝いしてくれてありがとうね。おばあちゃん、お仕事できたよ。」  
と孫に声を掛けます。まだ、きっとわからないと思いますが、赤ちゃんであ  
ってもどんどん声をかけて、実生活に合った言葉のシャワーをたくさん浴び  
せることで、言葉を獲得していくのでしょ。

自分の子どもと違って、なんと子育てに余裕があることか。みなさんもお  
ばあちゃんやおばさんに孫を預けるのもいいかもしれませぬよ。私の娘もこ  
の孫が大好きで、とても一生懸命世話を焼きます。まるで二ホンザルみたい  
です。二ホンザルも、集団で子育てをしますものね。娘の絵本の読み聞かせ  
もなかなか上手です。そういえば、かつて、私や夫が娘に読むことはありま  
したが、娘の絵本の読み聞かせは初めて聞いたかもしれませぬ。娘も、小さ  
い時にたくさん絵本を読んでもらったので、甥っ子に同じことをしたい、と  
思うのでしょね。

聖ミカエル幼稚園で育つ子どもたち。幼稚園の先生やお友達からたくさん  
のことを学びます。先生たちも積極的に言葉をかけていきます。言葉が育て  
ば、心が育つのです。

これからも、温かい、優しい言葉の中で、子どもたちが成長してほしいと  
願っています。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「おにぎりの思いで」

高校時代、私はワンダーフォーゲル部に所属して、野山  
を駆けまわり、冬は雪の中に穴を掘って夜を明かすなど、  
今では到底考えられないようなワイルドなことをしていま  
した。面白いのは、山岳部やワングルにも高体連があるこ  
と。他校のチームと同じ山に登って、途中、登山技術の審  
査があったり、天気図を書く試験、周辺の山の知識を質問  
されたりしながら順位を競うのです。3年生にもなると余  
計な自信がついてきて、まして私は部長などにも抜擢され  
てかなり調子に乗っていました。

ある山に登った時、下山中、徐々に体調が悪くなり、と  
うとうと歩けなくなってしまいました。その時、顧問  
の先生がやけに冷静に、「おにぎりを食べ」というのです。  
激しい雨が降る中、私はリュックから予備のおにぎりを取り  
出し、それを食べようと思いました。その瞬間、濡れた手  
でおにぎりが滑り、地面に落ちて坂道を転がり始めました。  
これが街中だったら、絶対にそんなおにぎりを拾って食べ  
ることはないでしょう。しかし、その時の私は、まるで自  
分の命の一部が転がって行ったように感じて、それを追  
いかけ、口の中に押し込みました。もちろん、おにぎりは泥  
だんごのように汚れていました。この泥んこのおにぎりを  
食べなければ自分はどうなっていたらと思うと、今で  
もぞっとします。

このおにぎり事件は、人それぞれ、生きて行くためには  
恥も外聞もなく、絶対に手放してはいけないものがあるの  
だと、私に貴重な教訓を与えました。そして、過剰な自信  
をもって安心しきっている時が一番危ないのだと、教えら  
れた気がします。

もうすぐ幼稚園を巣立って行くすずらん組の子どもたち  
にも、これから自分の命の重さに気づいていく、大切な経  
験を重ねて欲しいと願っています。

チャプレン 司祭 下澤 昌